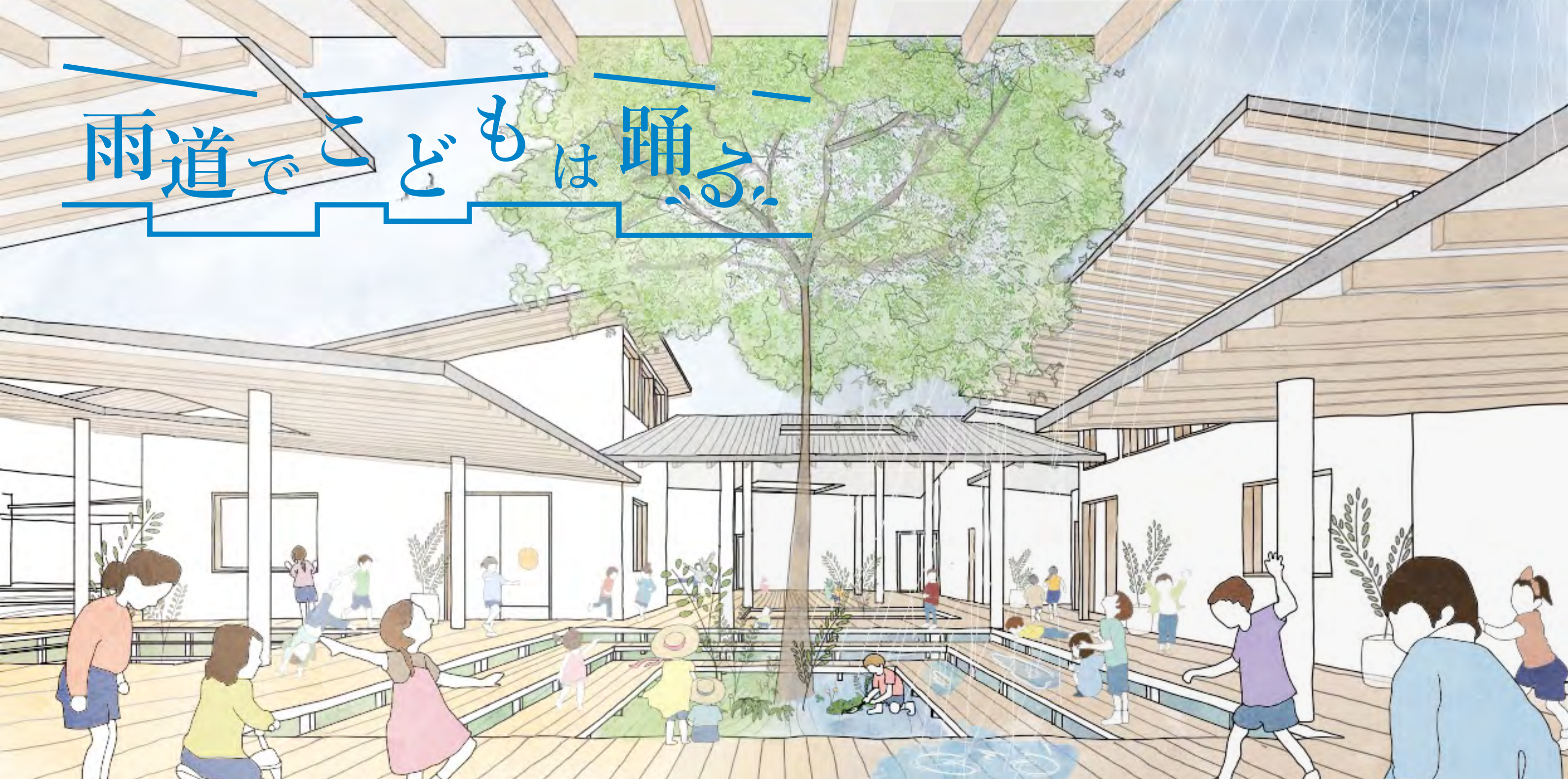
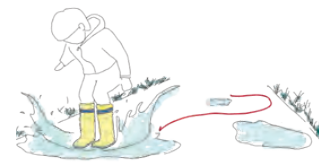


雨道でこどもは踊る



1. 雨の日のできる道＝“雨道”

雨の日には道路に水たまりができ、いつもと違う道＝“雨道”が現れ、こどもは雨道で晴れの日とは違う遊び方を発見する。そこでこの雨道を建築内に取り入れることで、晴れの日と雨の日で全く違う遊び方を発見することができるような天気によって空間が変化することも園を提案する。

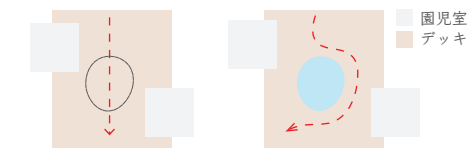


雨道でいつもと違う遊び方をすることも

2. “雨道こども園”の変化の魅力

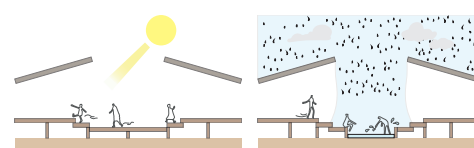
雨の日には外で遊ぶことができず、こどもにとって退屈な日になってしまうこともある。しかし、雨道こども園では、①普段と違う動線や②雨の日ならではの遊びができ、雨の日も楽しむことができる。

①動線が変わる



広いデッキで走り回る

②遊び方が変わる



デッキでお絵描きや読書

水たまりでバシャバシャ

3. 3つの建築装置で“雨道”を作り出す

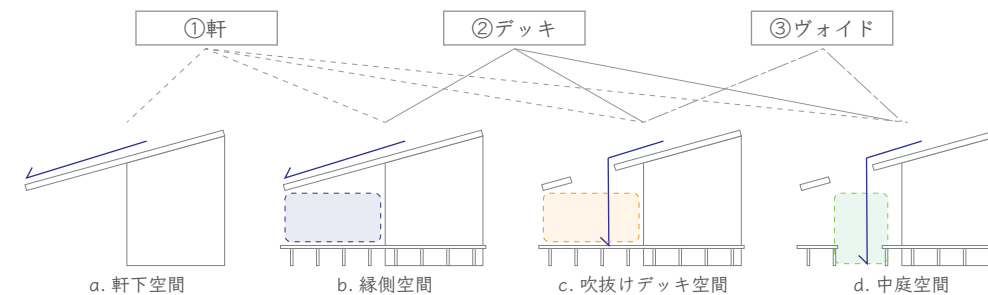
沖縄の伝統住宅では「雨端」と呼ばれる中間領域で天気と建築を緩やかに接続している。通常より深く軒を出すことによって晴れの日には日除けとして人の触れ合いを促し、雨の日には、雨具を畳んだり、外の変化を楽しむ場所として活用されている。

そこで、こどもにとって天気の変化をより身近に感じられる存在とするため、建築の中間領域に着目した。



沖縄の雨端＝中間領域

雨道を建築に取り込むため3つの建築装置を組合せ、様々な中間領域を張り巡らせた。これにより雨道を建築内部に作りだし、こどもの遊びを増幅させる空間となる。また、雨を内部に取り込む際、想定外の雨漏り防止や配食などの機能動線の確保に十分な計画的配慮を行った。



4. 雨道が重なることでこどもに成長の機会を与える

3つのシンプルな建築装置でできる4つの居場所で天気によって様々な遊びを発見する。この中間領域はこどもだけでなく、それぞれが親御さんや、地域住民、高齢者の交流スペースに加え、生き物や植物との触れ合いなどこどもに学びの機会を与える場所となる。中間領域が室内外の境界を繋ぐだけでなく、地域の境界を繋ぐ可能性を秘めている。



b. 縁側ゾーン

外のような遊び場
運動会時の観覧席
雨の日でも濡れずに駆け回れる
様々なエントランス

c. 吹抜けゾーン

日向ぼっこ
大屋根の下の大空間
水たまりを避けて鬼ごっこ
雨と触れ合う

d. 中庭ゾーン

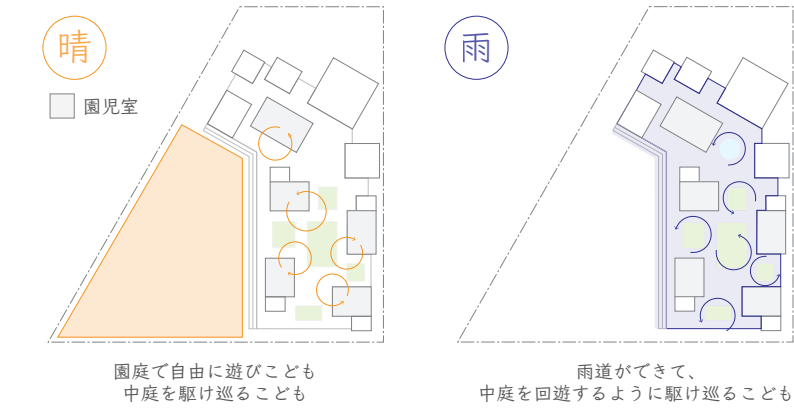
生き物の発見
花や野菜の育成
木の下で雨宿り
水たまり遊び

a. 軒下ゾーン

お母さんの団楽スペース
日除け
雨具の収納
急な雨宿りスペース

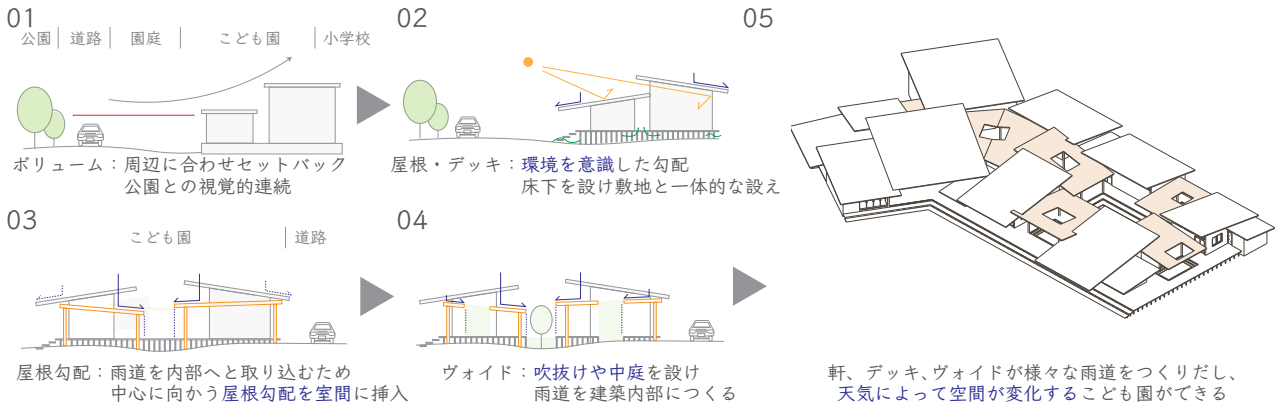
5. 動線の晴れと雨の日の変化

晴れの日にはテラスを自由に行き来し、雨の日にはテラスを回遊するように園内を駆け回る。



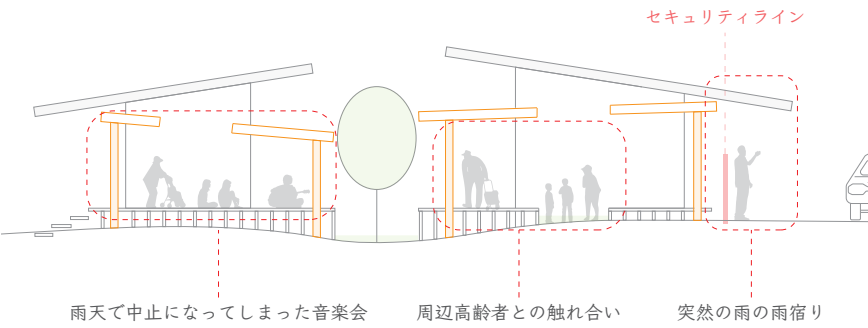
6. 雨道をつくる 4 つの手順

周辺のボリュームとの関係性からはじめ、建築計画や環境計画を含めた4つの手順で全体構成を決定した。

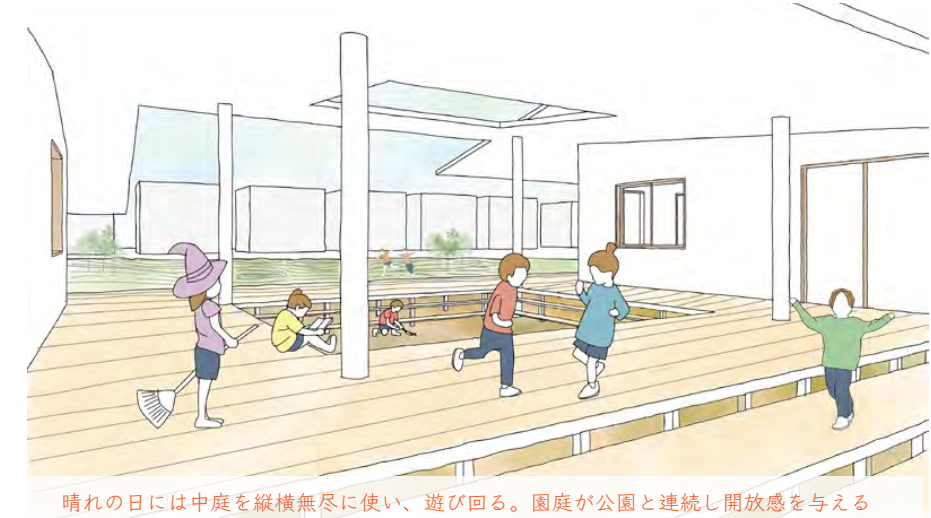


7. 地域交流の拠点となるこども園

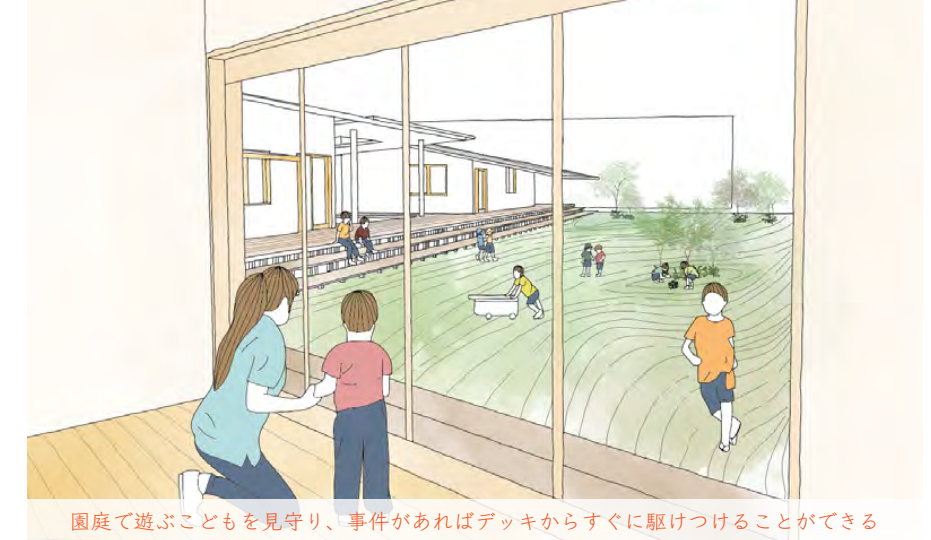
ウッドデッキを平滑に設えることでバリアフリー計画にも配慮し、周辺の高齢者との交流を見据えている。また、道路側への軒下の提供や雨天時のイベント開催場所として機能するなど地域交流の拠点となるこども園である。



1 4・5 歳児室間の中庭



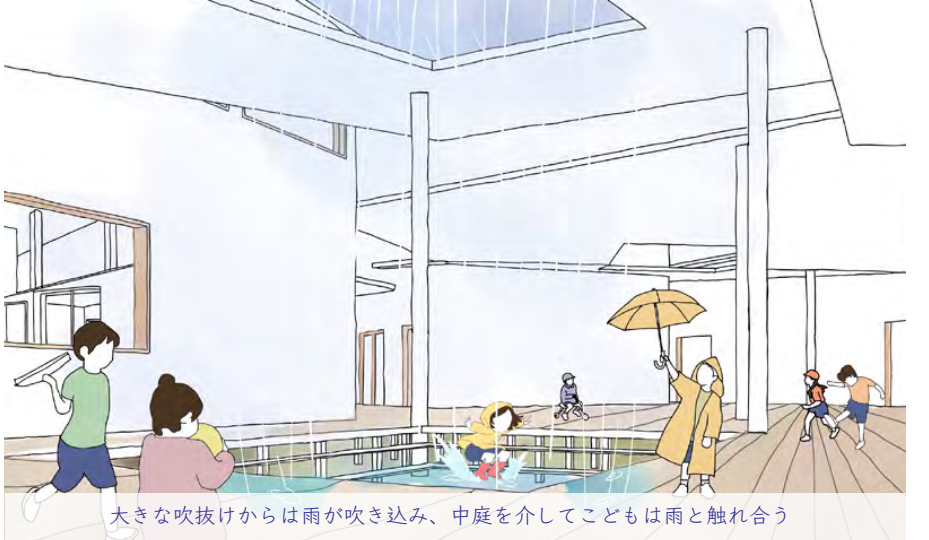
2 職員室



3 遊戯室前の吹抜け



4 2 歳児室前の中庭



8. 断面計画：

